

施設用器具委員会報告

1. 2026施設用器具委員会関係の規則の改正

調整中の箇所もあり、最終条文については、ルールブックで確認してください。
地域陸協にも伝達をお願いします。

概要：WA競技規則及び施設マニュアルとの整合と国内競技規則変更による整合

(1) グループスタートのスタート位置の変更

WAの主要な大会で運営している方法と整合するとともに暑熱対策や審判員の負担軽減をするためグループスタートのスタート位置を変更する。

➡ 競技規則、陸上競技場公認に関する細則

(2) ブレイクラインの考え方の変更

グループスタートのスタート位置を変更することに伴いブレイクラインの考え方をWA（WA施設マニュアル）の考えに整合する。

➡ 競技規則

(3) 300mHのWA規格移行への対応

➡ 競技規則、陸上競技場公認に関する細則

(4) やり投助走路踏切付近の舗装材の対応

やり投助走路踏切付近に引張強度の違う同製品の敷設についてWAの規定に整合する。

➡ 陸上競技場公認に関する細則

(5) その他の競技規則の改正

➡ 競技規則

(6) 室内陸上競技場のショートトラックへの移行による室内陸上競技場公認に関する細則の対応（2026年度中に改正予定）

(7) ショートトラックへの移行による屋外種目別陸上競技場施設公認に関する細則の対応（2026年度中に改正予定）

(1) グループスタートのスタート位置の変更

2025 東京世界陸上において WA よりグループスタートの区画はコーンで区切るよう指示があった。WA の主要な大会で運営している方法と整合するとともに暑熱対策や審判員の負担軽減をするため変更し、併せて WA 施設マニュアルに整合する。

【概要】

競技規則ではグループスタートのスタートラインを計測する方法は、縁石の外端から 300 mm 外方とラインの外端から 200 mm 外方を測る方法がある。国内では代用縁石を設置することとして縁石の外端から 300 mm 外方を計測している。ラインの外端から 200 mm 外方を測ることとして、ライン上にコーンを置く方法にする。併せてブレイクラインの考え方を WA 施設マニュアルに整合する。

【対応】

- ① 当該箇所またはトラックの改修および公認満了 2032 年 3 月 31 日までの検定までに適用する。
 - ・ 改正の周知期間を考慮して、2026 年度は対応できるところを可能として公認満了 2031 年度の検定までに適用とする。
 - ・ 検定を待たずに変更することは可能。
 - ・ 変更した時には検定が必要となる。
- ② グループスタートのスタートラインを変更する。
 - ・ 従前ラインの消去と新スタートラインを塗布する。
 - ・ 標識タイルの設置位置を変更する。
対応した標識タイルの色は赤とする。
 - ・ 3000m、5000m のブレイクマーカー（緑色 50×50）は C 点角石線とする。
 - ・ 標識タイル計算書の改定をする。
- ③ コーン（中）を 40 個追加して整備する。
 - ・ コーンの高さは 15cm～50cm のものとする。（高い物は不可）
 - ・ 競技場にとする。コーンの一般的な高さは 75cm であり、低いものとする。45cm が販売されている。）
- ④ スタートラインを変更した競技場をリスト化する。
 - ・ 競技会時に総務、技術総務、審判長が確認する。
- ⑤ 従前のスタートラインでは、代用縁石をすべて設置する。
 - ・ スタートラインを変更していない競技場では代用縁石をすべておいて競技会を実施する。
- ⑥ 3000mSC は従前の通り代用縁石を設置する。
 - ・ 縁石の外端から 300 mm 外方を計測点とする。
 - ・ スタートラインの変更はしない。
- ⑦ ブレイクの位置は前方の曲走路の接線点とする。（WA 施設マニュアル）
 - ・ 別紙

【競技規則】

TR 14. トラックの計測

14.1 略 縁石を撤去しコーンまたは旗で代用する（代用縁石を含む）方法は、水濠を越えるためにメイントラックを離れる障害物競走、TR17.5.2による第1グループと第2グループの走路の境界、縁石設置のない直走路にも適用されなくてはならない。後者の場合は（コーン、旗または代用縁石を置く）間隔が10mを超えないようにする。

〔国内〕

1. メイントラックを離れる障害物競走とグループスタートで **300 mm外方を計算された競技場**では、代用縁石を置くものとする。

14.2 計測は縁石の外端から300 mm外方、そして曲走路において縁石がない場合（あるいは、障害物競走で水濠を越えるために縁石が置かれていないメイントラックを離れる場合）、ラインの外端から200 mm外方を測る。

〔国内〕

国内の競技場では代用縁石を置くことから**ところは**縁石とみなし、300 mm外方を測る。

TR17. レース

17.5.1 〔国内〕 別紙

17.5.2 〔国内〕

1. 第1グループと第2グループの走路の間には代用縁石を置き、二つに分ける。合流地点には他とは異なる彩色の代用縁石を置く。
2. **第2グループのスタートは、第1グループと第2グループの走路の間のラインの外端から200 mm外方を測り、ライン上に150mm～500mmの高さのコーンを置く。（200 mm外方スタートライン）当該箇所またはトラックの改修および公認満了2032年3月31日までの検定までに適用する。**

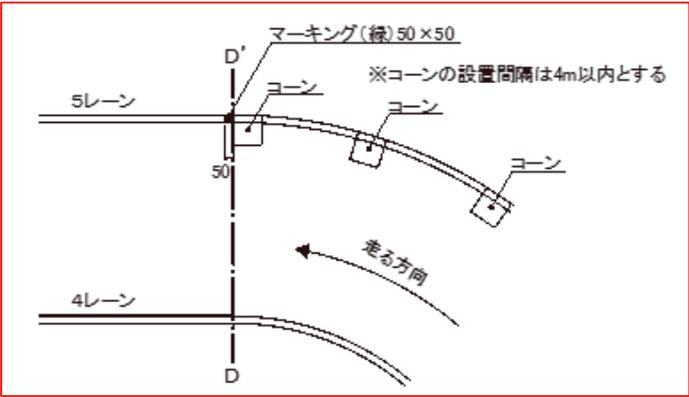
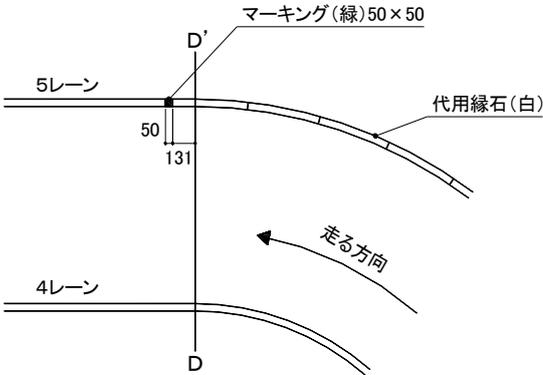
【陸上競技公認に関する細則】

(標識)

第10条

6. 標識は走路の両側の縁に明瞭で、耐久性のあるものを固定する。グループスタート 200 mm外方スタートラインの標識の色は赤とする。

別表1 全天候舗装用レーンマーキング色分け標準表

番号	項目	色分
8	<p>3000m、5000mのグループスタートの末端(合流点になる所) 200mm外方スタートラインの場合</p>  <p>300mm外方スタートラインの場合 (ただしL=80m、R=37.898mの場合)</p> 	緑

別表2 用器具一覧

代用縁石	◇	1式	1	1	((1))	((1))	障害物競走及びグループスタートに使用する全延長分 グループスタート 200 mm外方スタートラインの場合はコーン(中)を設置する
コーン(中)		((40)) 本	((40))	((40))	((40))	((40))	高さ 150 mm~500 mmのもの グループスタート 200mm外方スタートライン用

(2) ブレイクラインの考え方の変更

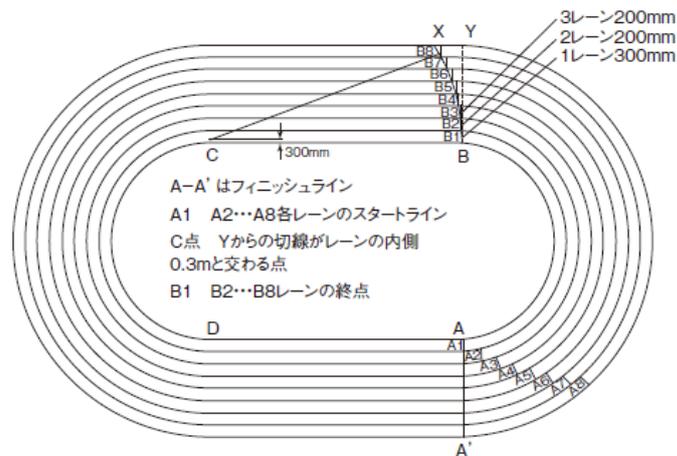
【概要】

ブレイクラインの設置、計算方法に違いがある。わずかな違いとなるがグループスタートのスタート位置を変更するに伴いブレイクラインの考え方をWAの考え（WA施設マニュアル）に整合する。

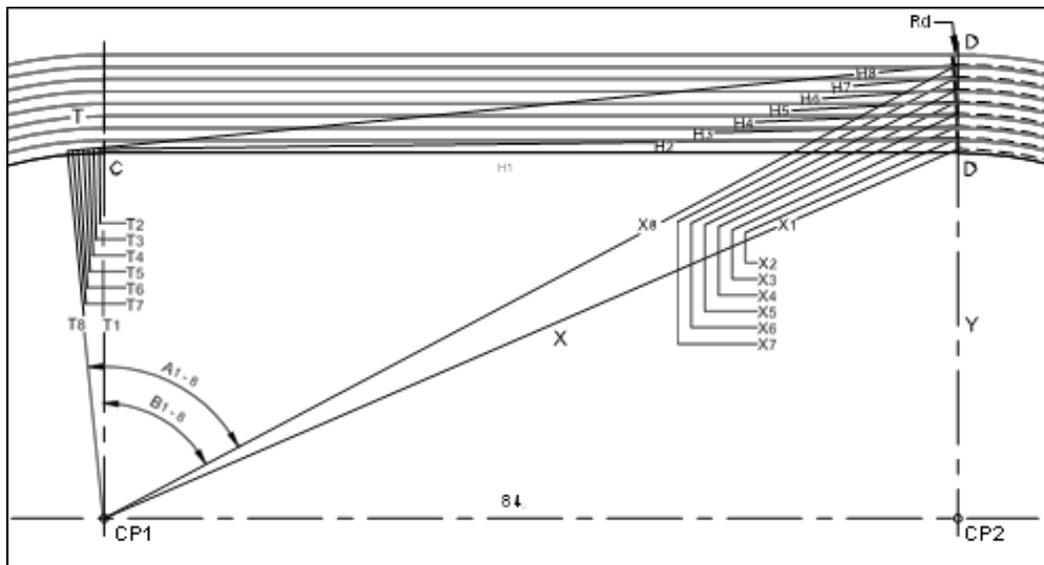
但し土質の競技場はその都度ラインを設置する必要があり、従来方法の角石からとする。

- 日本のブレイクラインは角石 C（直線と曲走路の境）から同じ距離とする。

第1曲走路をレーンで走る800m競走のスタート区画



- WA 施設マニュアルのブレイクラインは曲走路の接線点に向けた距離とする。理論上の走行ライン上ではなく、Hライン上で測定される。



図はWA 施設マニュアルより

X 距離 CP1 から D1/D8 Y 距離 CP2 から D1/D8
H 距離 H2/H8 から T2/T8 T 接線点 T2/T8
D/D 線からのブレイクラインの Rd 差 (Dからブレイクラインまでの差)
レーンの縁石上の C 点と D 点

【対応】

- ① 3000m、5000mのグループスタートの第2グループを200mm外方スタートラインとした時のブレイクマーカー（緑色50×50）はC点角石線上とする。
- ② グループスタートの第2グループを200mm外方スタートラインとした時の800mのブレイクラインは、当該箇所またはトラックの改修および公認満了2032年3月31日までの検定までに適用する。
 - ・ ブレイクラインの5レーン以降のスタートラインにわずかに差がある。
 - ・ ブレイクライン、800m、1600mの5レーン以降のスタートラインは検定時に新たな角度表と確認する。差がある時には修正する。また、塗り直し時には、新たな角度表により塗布する。
- ③ 土質競技場では、競技会ごとにラインを入れることから従前の考え方のおりとする。

【競技規則】

TR17. レース

17.5.1 〔国内〕

ii 800m競走でブレイクラインまでレーンを走る場合のスタート位置は二つの要素に注意しなければならない。第1に、適用する通常の階段式差は200m競走の場合と同じである。

第2に、外側のレーンの走者のためにバック・ストレートの終端でほぼ同じ距離となるように、内側のレーンの走者よりも各レーンのスタートの位置を順次前に出して調節することである。

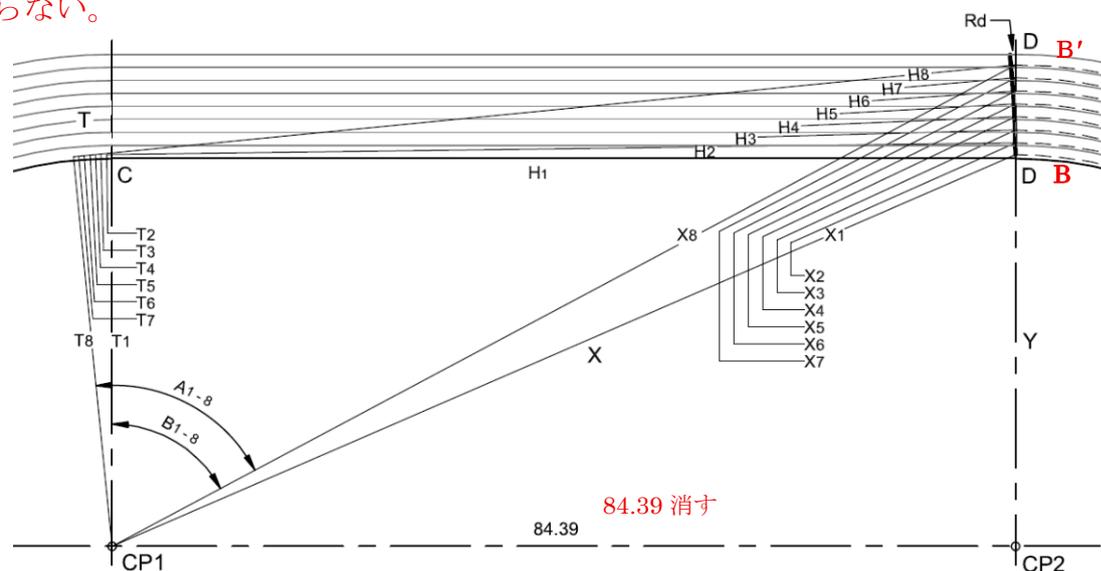
各レーンのスタート位置については、次の方法が望ましいとする。

グループスタートの第2グループを200mm外方スタートラインとした時の全天候舗装競技場の場合

- (1) 1レーンのブレイクライン（X1）は、内側の縁石の外端から300mmの地点。
- (2) 第2レーンから一番外側のレーンまでは、1レーンのC点先の曲走路の周りの300mmの測定線に沿ってカーブを十分に回り込むように、ブレイクラインの外側の端から曲走路の接線点から決まる。

スタートの位置の正確な調節は次の方法で決定する。

800m競走における各レーンのスタートの位置をB・B'線上より前に出さなければならない。



Rd : 斜辺 H 上での測定値。理論上の走行ライン上の短縮ではない。
各レーンのスタートの位置を前に出す距離は、レーンの幅が 1 m220、直線の長さ 80 m とすると、次の数値になる。

第 1 レーン	0	第 2 レーン	8 mm	第 3 レーン	34 mm
第 4 レーン	79 mm	第 5 レーン	141 mm	第 6 レーン	222 mm
第 7 レーン	321 mm	第 8 レーン	437 mm	第 9 レーン	571 mm

全天候舗装競技場の場合のブレイクラインは、当該箇所またはトラックの改修および公認満了 2032 年 3 月 31 日までの検定までに適用する。それまでに修正されていない競技場は土質競技場の場合を適用する。

土質競技場の場合

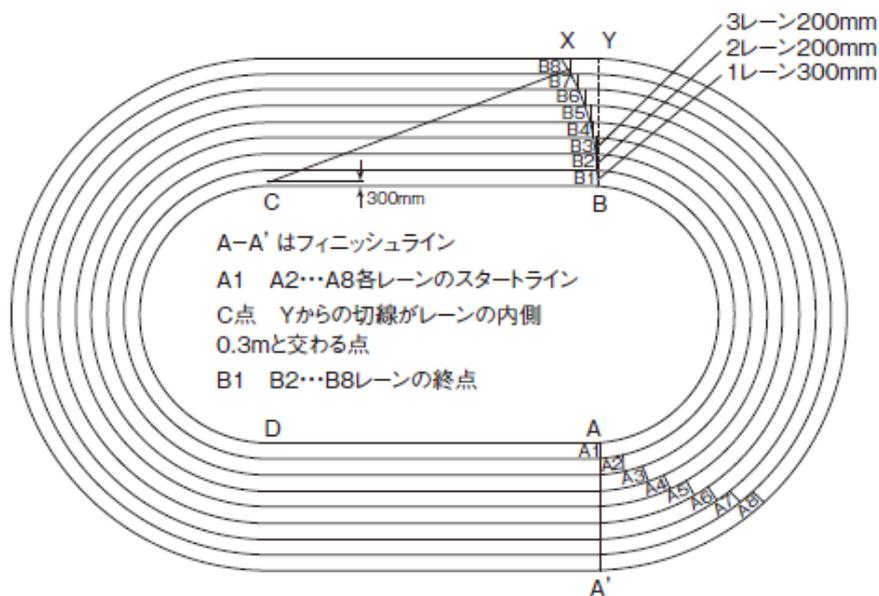
- (1) 1 レーンのブレイクライン (B1) 点は、内側のレーンのバック・ストレートの入口で、内側の縁石の外端から 300 mm の地点。
- (2) 定点 Y は、~~AB1 の延長線で一番外側のレーンの、そのレーンの内側のラインから 200 mm の地点。~~
- (3) 定点 C 点は、バック・ストレートの終点、即ち、次の曲走路の始まる所で内側の縁石の外端から 300 mm。
- (4) ~~CB1 を半径としてトラックに弧 B1X を引く。このラインは、トラックに幅 50 mm で示す。~~
- (5) 第 2 レーンから一番外側のレーンまでは、C 点より **CB1** を半径として、B1X と各レーンの内側から 200 mm の点の交点により決める。

スタートの位置の正確な調節は次の方法で決定する。

800m 競走における各レーンのスタートの位置を B1Y から各レーンの終わり (B2 ~ B8) までの距離を前に出さなければならない。

各レーンの正当なスタートの位置を前に出す距離は、レーンの幅が 1 m220、直線の長さ 80m とすると、次の数値になる。

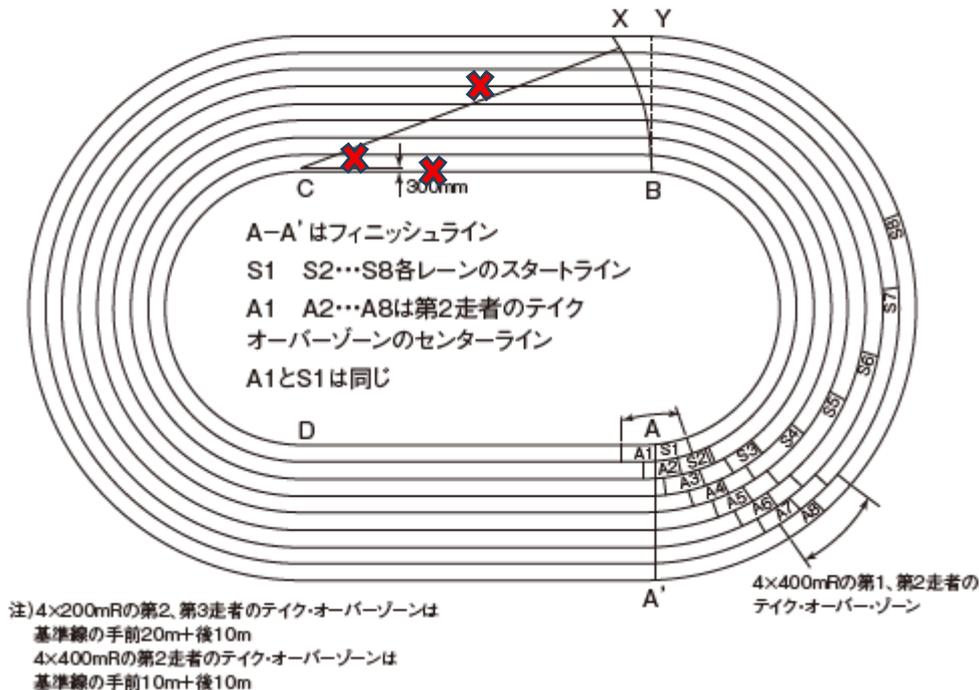
第 1 レーン	0	第 2 レーン	8 mm	第 3 レーン	34 mm
第 4 レーン	79 mm	第 5 レーン	143 mm	第 6 レーン	225 mm
第 7 レーン	326 mm	第 8 レーン	446 mm	第 9 レーン	585 mm



24.16.2 図

図の矢印、300mm を削除

4×200mおよび4×400mリレーで1周とつぎの曲走路
までをレーンで走る場合のスタート位置と地域変化図



(3) 300mH の WA 規格移行への対応

【陸上競技公認に関する細則】

(標識)

第10条

- 2025年度以前の規格における300mHのハードル位置の標識は別途定める方式によるものとし、150mのスタートラインは、別途定めるところに従い、300mHのハードル位置についての標識を利用する。
2026年以降の規格における300mHのハードル位置の標識は400mHの標識タイルによる。新たな標識タイルの設置はしない。150mのスタートラインは、別途定める方式による。

※ 従来の(2025年度以前の規格)300mHのビスを残す時には、検定時に設置位置を確認する。整備が必要となります。

(4) やり投助走路踏切付近の舗装材の対応

【概要】

2023年WAカOUNシル会議において改定され、ブタペスト世界陸上、パリオリンピックで対応している。2025東京世界陸上においてWAよりやり投助走路の踏切付近(L=8m)を同じ舗装材で強い強度の物で改修するように指示があり、国立競技場を改修した。まだ、WA施設マニュアルの改正は明文化されていないが、WAの規定に整合する。

【2023年WAカウンスル会議】

競技室内の高ストレスエリアの構成の違いに関する陸上競技施設マニュアルの改正案を承認した。最近の経験から、合成表面は、実施されるイベント(トラック、ジャンプ、スロー)によって非常に異なるストレスレベルを受ける可能性があることが示されています。競技場の陸上競技エリア間で、引張強度は異なるが同じブランドとモデルの表面を実装するアプローチは、メーカーと検討され、最近経験された問題を回避することを目的として、関係するアスリートの一部でテストされています。この改正の結果、インフィールドの高応力領域は、この構成の違いを認識して、ランニングオーバルと比較してわずかに異なる引張強度特性を持つことができるようになった。

【陸上競技公認に関する細則】

第8条

- 2 (6) 走路、助走路及び半円部分の舗装材は、すべて同等のものとし、表面仕上げおよび硬度は、すべて同一とする。また、舗装を一部改修するときにも、舗装材は、既存の舗装材と同等のものとし、表面仕上げおよび硬度は、既存の舗装と同一とする。ただし、やり投助走路のスターティングラインの円弧より後方8mについて、同一舗装材で若干異なる引張強度(WA基準)とすることができる。(条文調整中)

(5) その他の競技規則の改正

第2部トラック競技

TR22.1

ハードル競走の標準の距離は、次の通りとする。

男子(一般、U20、U18): 110m、**300m**、400m

女子(一般、U20、U18): 100m、**300m**、400m

100m、110m、400mでは、各レーンに10台のハードルを設置する。**300mでは各レーンに国際基準では7台、国内基準では8台のハードルを設置する。**

男子

距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離
110m	13m720	9m140	14m020
*300m	50m	35m	40m
**300m	45m	35m	10m
400m	45m	35m	40m

女子

距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離
100m	13m	8m500	10m500
*300m	50m	35m	40m
**300m	45m	35m	10m
400m	45m	35m	40m

*国際基準 **国内基準

TR22.3 ハードルの標準の高さは、次の通りとする。

男子

距離	一般	U20	U18	中学校*
110m	1m067	991mm	914mm	914mm
*300m	914mm	914mm	838mm	-
**300m	-	914mm	838mm	-
400m	914mm	914mm	838mm	-

女子

距離	一般	U20	U18	中学校*
100m	838mm	838mm	762mm	762mm
*300m	762mm	762mm	762mm	-
**300m	-	762mm	762mm	-
400m	762mm	762mm	762mm	-

*国際基準 **国内基準

第3部投てき競技

TR32.11 着地場所

着地場所の最大許容下方傾斜度は、**サークルの中心の高さ、またはスターティング・ラインの中心の高さから**、投げる方向で1,000分の1（0.1%）を超えてはならない。

TR36.6

[注意]Green 新規

チューブの目的は、ハンマーがケージの網に引っかからないようにし、競技が遅れる可能性を減らすことにある。ワイヤーをチェックできるように、透明なプラスチックチューブであることが必要である。

第5部200m（ショートトラック）競技

TR43.1 Green 新規

1周が標準の200m以外の長さのトラックで達成された記録であっても、そのトラックの標準長さが**201.20m（220ヤード）を超えない場合には、ショート・トラックの記録として認められる。**

TR43.2

トラックは4レーン～6レーンとする。レーンの幅は右側のラインを含めて900mm～1m**200**とする。どのレーンも同じ幅で...

TR43.2Green 新規

トップレベルの競技会を開催するには、**6レーンのトラックがあることが望ましい。周回トラックの理想的な幅は1mである。**

TR43.4

トラックの内側を白線で区分する時は、曲走路には必ず、直走路には必要があれば、**高さ100mmから150mmのコーンを追加で設置しなければならない。** コーンは白線上に、その底面の端がトラックに最も近い白線の端と一致するように設置しなければならない。コーンは曲走路では1m**500**を超えない間隔で、直走路で10mを超えない間隔で設置しなければならない。〔国際〕技術代表の承認があれば、同様の高さの他の適切な物理的マーカーを使用することもできる。...

TR43.4Green

コーンを置くときは、第1レーンの内側にある白線がそのレーンに含まれないということを考慮する必要がある。

TR44.6

グループスタートの場合、コースの外側半分は、高さ0.10mから0.15mのコーンで示され、コーンを当該レーンライン上に設置する。コーンの底面の端は、コースの外側半分に最も近い白線の端と一致するように設置し、コーンは1m500を超えない間隔で設置しなければならない。〔国際〕技術代表の承認があれば、同様の高さの他の適切な物理的マーカーを使用することもできる。

TR44.6 Green

色付きのレーンを示すラインのみでは、グループスタートにおけるトラックの外側半分を示すには不十分であり、物理的マーカーの使用要件の代替とはならない。

第6部 競歩競技

TR54.11.1

競技会では、周回コースは1周最長2km、最短1kmとする。〔国際〕但し、競技運営上の正当な理由により、1km未満の周回コースが必要とされる場合は、技術代表の承認を得て設定することができる。スタートとフィニッシュが競技場内の競技では、周回コースは競技場のできるだけ近くに設定する。

2. 競技会の派遣について

(1) 技術総務の派遣

- ・ JTOの業務を補完するため、技術総務の任務について助言提言するため、施設用器具委員会から技術総務を派遣しています。
- ・ 派遣している大会：国民スポーツ大会、日本選手権、U16・U18日本選手権、日本選手権混成、ゴールデングラプリ、インターハイの6競技会
- ・ 助言する任務は、投てき用具の検査方法、投てき用囲いの設置など安全運用、推奨する技術総務/公式計測員の任務作業内容を主管陸協担当者へ指導伝達している。
- ・ 事前に「技術総務確認事項」送付して、競技場の用器具の確認、施設配置、ハードルの設置、角度線、距離線の設置、投てき用具の検査等について準備をしていただいている。

(2) 国際道路コース計測員の派遣

- ・ 世界記録、アジア記録の認定は、WA認証コースでなければできません。この場合、競技に先立ち、正式に計測され記録されたとおりのコースであることを確認しなければなりません。（競技規則 CR31. 21. 4）
- ・ 当初のコース計測を行った計測員（A級、B級）またはその計測員に指名された者が、競技中に先導車に乗り込み、競技者が同じコースを走っていることを確認しなければなりません。
- ・ 施設用器具委員から国際道路コース計測員の派遣をしています。
- ・ WRKの競技会では国際道路コース計測員の任命が必須となりました。主催、後援競技会以外のWRKの競技会で派遣を希望する大会では、陸連に派遣依頼を提出してください。
- ・ プログラムの審判編成には「国際道路コース計測員」としてください。

3. 競技会での注意事項

(1) 300mH設置の注意事項

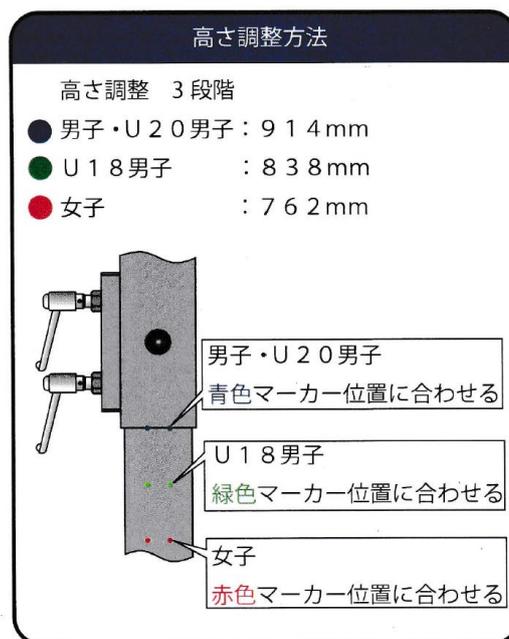
- 2026年度以降はWA規格 300mH を新たに公認記録対象種目となりました。
- 2026年度以降の競技場の対応は下記の通りとしています。
 - WA規格 300mH の新たな表示を行わない。
400mH 4台目が1台目となり、400mH の位置となるので、**新たな標識タイルは設置しない。**
 - 国内規格 300mH を行わない(必要としない) 競技場では、検定時にビスの撤去とペイントの消去をする。2025年度の検定において対応することは可。
 - ビスを抜いた穴はウレタンでは充填は不要であるが、施工業者に確認すること。
 - 国内規格 300mH を必要とする競技場では、今までとおり整備する。
 - 但し、300mH 4台目は150mスタートとなるので、ビスを抜かずに、ビスを存置し、「150S -レーン数字」とペイントする。

(2) 4×1500mリレーの実施

- 日本記録が認定される種目で、実施される時がある。
- 4×1500mリレーの4走は4×1000mリレーの(1-2)を利用していました。リレーゾーンが20mから30mに変更された時に4×1000mリレーの標識タイルを変更して、この個所の標識タイルが抜けてしまっています。
- 4走のリレーゾーンの入に標識タイルが入っていない。競技会を実施する前に標識タイルを入れて検定を受けてください。

(3) 障害物の対応(競技規則 TR23.5)

- 障害物の高さにU18男子(838mm(±3mm))の規格が2020ルールに新たに定められた。
- 国内では競技会で行わないことから、[国際]対応になっているが導入されてもすべての競技場が対応するには10年近くかかることから、2020年からU18の高さにも対応した製品が納入されている。
- 固定障害は水濠改修時など固定障害の支柱を更新するとき、移動障害は更新するときに対応している。義務付けではなく、更新する以外の対応はしていないので注意されたい。現地検定等の対応もしていません。
- 納入した競技場では、高さの違いが判りづらく、競技会時に高さの修正に間違いがないよう注意をされたい。使用する審判員等に周知をしてください。



固定障害の高さの表示

(4) 走高跳の競技位置

- 公認競技場では走高跳のマークのあるところを認定しています。必ずマークのあるところで競技会を行ってください。マークのないでは走高跳の施設として検定をしていません。
- 特に踏切付近は舗装厚を18mmと厚くしています。(1種、2種は義務付け)
- 判定補助線は、芝生から1m以内の場合に塗布されています。
- トラック側の走高跳は2022年の規則改正により設置することができました。それより以前にマークをしている所があります。検定をしていない所では競技会は行わないようにしてください。検定をしたかどうかは、地元検定員に確認ください。必要な競技場では検定を受けてください。
- WA認証競技場では2022年以降の検定においてトラック側の走高跳を設置したところはWAに報告をしています。しかし、WAからはワールドランキングコンペティションの1.(a)(b)(c)(d)、2.(a)(b)には使用できないとのコメントがついてきています。アジア大会ではトラック側の走高跳を使用することはできません。



走高跳のマーキング

(5) 秤の調整

- 重さは緯度によって影響があります。投てき物を測る秤は、必ず10Kの確認をしてください。持ち込検査で正しく判断できるようにしてください。少なくともシーズン初めには確認をしていただきたい。
- 差がある時には取扱説明書により調整をしてください。



(6) ワールドランキングコンペティションでの投てき物の使用

- WA認証品の使用が明記された。(TR32.1) 日本陸連の検定品にはWA認証品ではない物があります。投てき物のリストには、WA認証番号と規格を記入するようにしてください。
- 最新の製品はWAのHPに掲載されている。WAのHPは更新されてしまうので、古い物はその年近くのHPで確認することになる。

主催者が用意する投てき物一覧表

器具	種別	メーカー	品名等	WA認証番号	規格等	数量	合計
ヤリ	男子(800g)	NISHI NORDIC	スーパー80m	I-01-0236	White	1	8
			エクスプレッソ-スティー-llflex6.1(steel)	I-99-0011	Red/white, red cord	1	
			チャール*オンスティール	I-99-0012	Yellow	1	
			スーパ*エリートスティー-ll90m	I-99-0020	White	1	
			オービットスティー-llflex6.6	I-99-0014	Blue/White	1	
		NEMETH	クラシック95m	I-09-0400	Violet/yellow/orange	1	
			クラシック90m	I-09-0100	Violet/yellow/green,violet cord	1	
			クラシック85m	I-09-0429	Violet/yellow/magenta,violet cord	1	

(7) 兼用サークル表面の仕上げの追加

- ・ 2019WA施設マニュアルの改正において、ハンマー投の兼用サークル(ドーナツ板)は素材によっては雨天時に滑りやすいものがあり、競技者がけがをしないように、上部を白色以外で、滑らない仕上げとされた。
- ・ 検定品であるので、買い替え時には滑らないものを購入する。
壊れやすいので製造会社に壊れにくい物の作成を要請中。
- ・ 買い替えるのは高額のため、買い替えるまでの措置として競技場にある製品には、滑らないテープを貼ることで対応可能としている。
- ・ 競技会では規格にあったものを利用してください。

(8) 囲いの安全確保

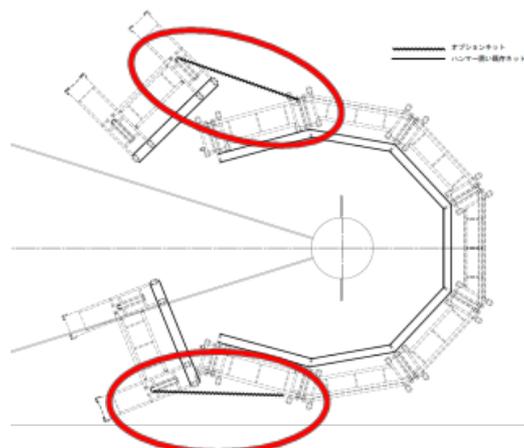
- ・ 2023年8月に実施されたインターハイで、男子ハンマー投げ競技中選手が投げたハンマーが囲いの隙間から外に飛び出し、選手控えテントにあたり落下した。これは、右投げ選手の投てきが終わり、左投げの選手のためにパネルを移動し、また元に戻す作業を繰り返している間に隙間が広がったため起きた。
- ・ WA規格の囲いは本体と前パネルが一体となっており隙間がないが、従来型はどうしても隙間が生じるため、台座部分をかみ合わせ、隙間を最小限にする措置がとられているが、今回のように移動が度重なると広がる可能性がある。
- ・ これを防止するために、補助ネットを張る方法が提案され、佐賀国民スポーツ大会で使用された。安全確保に有効であった。今後も安全に対する対応が、重要となってくる。



佐賀国スポ設置例



補助ネット設置例(ニシ・スポーツ提供)



(9) 長距離競走路、競歩路コース設定の注意

- ・ 競技会では計測したコースを設定してください。計測したコースと同じに設定されないと公認大会と認められません。
- ・ 計測時に作成された経路図、ポイント図を基に設定をしてください。コース所有者がこれらの図面を作成しています。
- ・ 計測されたコースと違うコースとなる時には、事前にコース変更の検定を受けなければなりません。
- ・ 途中計時の記録もコース設定の条件を満たしている箇所は、公認記録となりますが、必ずラインを入れてください。
- ・ 公認コースで非公認大会を開催した。民間の申し込みサイトに公認コースの記載があり、別の大会の参加記録を狙って出場したが記録が認められなかった。

4. 世界陸上での対応

(1) グループスタートの対応

- ・ WAよりグルースタートはコーンを設置して行うので、スタートラインを書き直して、検定して報告をするように指示があった。急遽ラインを変更して9月2日に検定をした。大会後もとに戻している。
- ・ TDより用意したコーン（マラソン、競歩用）は高すぎるとのことであったが、黄色のコーンが足りなく、黄色のコーンとブレイクラインマーカーを交互に置いた。撤去時間は30秒であった。
- ・ 縁石を外したところもコーンを設置しているので、代用縁石の箇所もコーンでよいのではないかとWA施設担当者に確認したところ、コーンと縁石では走る位置が違い、代用縁石で行う時には全部設置しなければならないとのことであった。



(2) ハードルの設置

- ・ 特注の運搬車を使用した。担当するコラボレーター（大学生）がわずかな時間の訓練だったが、正確に設置が出来た。海外からの取材もあり、設置のパフォーマンスは好評であった。
- ・ 「20:08 男子 400mH 終了後 400mH 撤去、20:14 までに男子 110mH 設置完了」「20:49 男子 110mH 終了後 21:01 までに女子 100mH へ移動」「22:04 男子 3000mSC 終了後障害撤去、22:13 までに女子 100mH 設置」というクレイジーなタイムテーブルがあった。「カートでハードル設置・撤去組」と「手押し台車でハードル設置・3000mSC 設置撤去組」に分けそれぞれ作業を行った。400mH 撤去と 110mH 設置は同時進行、3000mSC 撤去と 100mH 設置は同時進行で行い、それぞれ時間内に設置撤去を行うことができた。



(3) 棒高跳の支柱台とマット

- ・ 用器具のサプライヤーはニシスポーツとなった。しかし、6m30 を設置できる支柱台がなかったことと、クリアした時の LED ランプをつけたいとのWAの要請によりモンド社製の支柱台が使用された。
- ・ モンド社製の支柱台はボルトで固定式のため、大会前にボルトを設置した。設置撤去でボルトが破損して、業者に来てもらい（2回）修理をした。
- ・ 支柱台とマットが合わず、マットを削って対応をした。



(4) 囲いの設置、撤去

- ・ 囲いの種目のないセッションでは囲いを撤去した。8回の設置撤去となった。世界陸上では初めての対応で、観客から見やすい競技会となった。

(5) やり投の踏切付近の舗装材

- ・ WAよりやり投の踏切付近の舗装材を同じ舗装材で強い強度の物で改修するように指示があり、改修をして検定をした。
- ・ 2023年WAカウンスル会議において異なる引張強度特性を持つ舗装材を可能とする改定され、ブタペスト世界陸上、パリオリンピックでもやり投の踏切付近について対応している。
- ・ やり投の投てきでは、以前のものと比較するとグリップが効いているようである。しかし、走高跳の選手には強度の強い舗装材は不評であると言っていた。